

職員による自己評価

A環境面  
 建物も古くなっていますので、点検をしながら安全に留意して、整備していく。

B児童への支援内容  
 個別支援計画に基づき、支援をしているが、一人ひとりの細かい配慮点などは、もう少しきめ細かく話し合いの時間を持ち、支援員で共有していくことが、もう少し必要だった。

C関係機関との連携  
 区の自立支援協議会、子供部会には積極的に参加してきた。また、療育センター、地域ケアプラザ、区役所、各学校への訪問などをとうし、情報を共有した。

D保護者への説明責任・信頼関係  
 何かあった時は、できるだけ早く丁寧に説明するようにしている。茶話会は好評なので、さらに内容を深める。

E非常対応  
 非常時マニュアルを整備して、周知できるようにした。職員向けの突発の避難訓練は、とても良かった。継続していく。

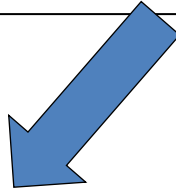
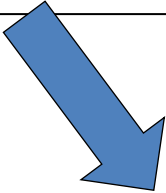
保護者による評価

A環境  
 建物が古く、バリアフリーが充分とは言えない室内を、ゆっくり見る機会が少ない。

B児童への支援内容  
 戸外で遊ぶ機会が多いのが良い。子供がいつも利用するのを楽しみにしている。。長期休みの時に、いろいろな企画をしているのが良いと思う

C事業所からの情報発信  
 連絡ノートやブログなどで子どもたちの活動を様子を知ることができる。職員がどんな研修をしているか知りたい。茶話会がとても良かったので、早めにしらせてもらいたい。

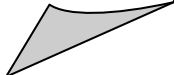
D非常対応  
 非常のときの、マニュアルなどが、わかっている。という回答と、よくわかっていないという回答がある。



事業所内での分析

**【共通点】**  
 戸外での活動については、一定の評価があり、日常生活リズムを整えていく上では、これから先も続けていくことの大切さを実感した。  
 また、今年度から茶話会を定期的に行う企画をせたが、保護者同士、また職員との関わりは、お互いにとても有意義だった。また続けて行くことを、確認した。

**【相違点】**  
 非常時対応の件などで、わかっている、いないが半々のようなので、様々な場面を通じて、理解を深めてもらうことが大事になってくる。それは、非常時に限らず、いろいろな面で、言える。



## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・居場所から引き続きの職員が多いので子どもたちの成長を確かめ合えることができる。そのことは、みとうしを持った支援につながっていると思われる。
- ・戸外活動を中心に行っていることもあり、児童に対しての指導員の比率が高く、なるべく個々に対応できるようにしている。

### 事業所の改善点

- ・施設、設備面では、まだ工夫をして、使いやすくしていく必要がある。
- ・災害時のマニュアルや、非常時のマニュアルを、わかりやすい形に整備したので、それを、一人ひとりよく内容を理解して、実際の場面で発揮できるような、取り組みが必要。
- ・地域の防災訓練などに参加できる機会を作り、積極的に地域にかかわり、理解をふかめていただくことが仏用ある。

### 事業所の改善への取り組み

- ・引き続き、子ども一人ひとりの支援を、充実していくために職員間での情報を共有し、統一した支援を深めていくように、話し合いの時間を増やし、充実させていく。
- ・災害時の具体的なマニュアルの内容を再度見直し、検討していく。それに伴い、避難訓練の内容も充実させていく。
- ・今年度から始めた、茶話会の内容を精査し、内容を充実し楽しいものにして、定例化していくように取り組んで行く。
- ・職員の研修内容も知らせながら、支援を深め信頼関係を構築していく。

アンケートをとって、概ね今行っている活動、支援に理解をしていただけていることが少しわかりました。がまだまだ足りない部分もあり、また、一人ひとりのご利用者本人、ご家族の方にももっときちんと、共有して行かなければならない事があることも実感することができ、今以上に研修などを深めて、支援へとつなげていきたいと思いました。

事業所名 いっぱい

担当者 山崎五月